

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

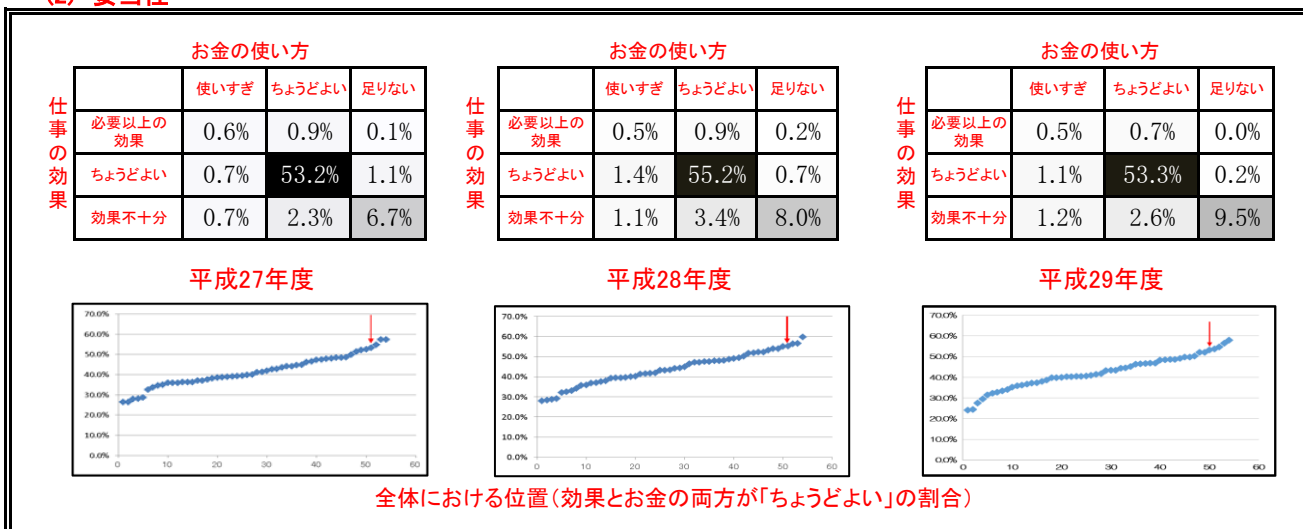
総合計画上の位置付け	分野	施策の方針	水辺環境の整備・創出・管理
目標とすべきまちの姿	局所的な集中豪雨等が生じて、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。また、河川津波遡上対策により、津波被害がほとんど発生しない状況となっています。水辺には動植物が生息し、市民の憩いの場となっており、景観にも配慮した観光都市にふさわしい水辺環境となっています。		

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	平成28年度	平成29年度	(回答者全体に占める割合)
	27.8%	23.6%	26.2%	

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	16.3%	51.0%	1.4%	31.3%
平成28年度	13.9%	56.5%	1.1%	28.6%
平成27年度	14.4%	50.9%	1.4%	33.2%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。(都整-34)
- ②普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつについては、費用対効果を考慮して計画的に実施し、施設機能の確保を図る。また、定期点検結果を基に適切な時期に実施するなど維持管理に努める。(都整-34、35、51)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①②河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事、普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつは、市民生活を安全な環境に保つものである。(都整-34、35、51)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
都整-10	河川管理運営事業	1,489	1,469	6,131	6,384	0.6	0.6		b	B
都整-34	河川維持補修事業	32,563	21,651	29,440	123,514	1.0	1.0		b	A
都整-35	雨水施設維持管理事業	3,888	3,797	6,134	8,048	0.3	0.3		b	A
都整-51	雨水施設維持管理事業	13,965	18,452	26,032	33,083	1.0	1.0		b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①河川維持修繕工事普通河川滑川の護岸工事を実施した。準用河川小袋谷川、神戸川、普通河川滑川及び河川管理施設の維持修繕業務を実施した。(都整-34)
 ②準用河川砂押川及び調整池のしゅんせつを実施した。また、機器が良好に作動するよう適性な維持管理に努めた。(都整-34、35、51)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☒ 適切	☐ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☒ 適切	☐ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・迅速な対応を図るため、河川維持管理協力団体及び市職員による定期的な巡回を実施した。(都整-10、34、35、51)
 - ・河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、安全性を考慮しつつ、低廉な工法を選定し実施した。(都整-34、35)
- 雨水調整池やゲートの類等の雨水排水施設について定期点検及び自主点検を行い良好な状態を保持した。(都整-35、51)
 準用河川及び調整池のしゅんせつを行い良好な状態を保持した。(都整-34、35)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・予防保全型管理と事後保全型管理を効果的に組み合わせ、計画的かつ効率的な維持・管理・補修・更新・運営を行う。(都整-34、35、51)
- ・河川維持管理協力団体と更なる連携が必要であることから継続的な活動を支援する方法を検討する。(都整-10)
- ・河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。(都整-34、35)

(7) 平成30年度の目標

- ①河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。(都整-34、35)
- ②普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつについては、費用対効果を考慮して計画的に実施し、施設機能の確保を図る。また、定期点検結果を基に適切な時期に実施するなど維持管理に努める。(都整-34、35、51)
- ③老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のため、施設調査を実施する。(都整-34)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

- ①②河川施設の維持修繕業務、維持修繕工事や、普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつは、安全な市民生活を保つ。
 (都整-34、35、51)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	都整-34	事業名	河川補修事業									
指標の内容	準用河川の修繕						単位	m	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 準用河川において継続的な修繕が必要なため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0					
	実績値	23.0	27.0	15.2								
	達成率	65.7%	77.1%	43.4%								

整理番号	都整-35	事業名	雨水施設維持管理事業									
指標の内容	ゲート類の点検						単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 浸水対策としてゲート類の良好な機能維持が必要なため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0					
	実績値	58.0	58.0	58.0	58.0							
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							

整理番号	都整-35	事業名	雨水施設維持管理事業									
指標の内容	雨水調整池のしゅんせつ						単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由 浸水対策として雨水調整池のしゅんせつは継続的な対応が必要なため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0					
	実績値	1.0	0.0	2.0	2.0							
	達成率	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%							

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・鎌倉の河川は大きな河川ではないが、海に直結している。津波被害発生を防ぐ施策を常に考えていることが重要である。
- ・河川維持管理協力団体と市の連携が十分に図られていないことは課題である。



指摘への対応、コメント等

- 津波遡上対策についてハード面・ソフト面の両面での対策について神奈川県と協議していく。
- 継続的な活動を支援する方法を検討していく。

提言

- ・全国的な異常気象に伴う集中豪雨、特に九州や東北に甚大な被害をもたらした規模の豪雨がいつ鎌倉を襲うかは判らないので、他との連携を持ってさらに一歩進んだ対策を、市民が安心して暮らせるまちづくりをしていただきたい。
- ・河川管理に関し、地域住民との協力体制をつくり上げ、良好な水辺環境を創出するべきである。
- ・市民の憩いの場となり、鎌倉らしい水辺環境にぜひしていただきたい。
- ・河川に対する安全対策については、今後も注視しながら整備を進めてほしい。
- ・一昨年度の評価委員会からの指摘・提案に対し「施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行する。」とコメントしているが、それらに対する取組が見られない、計画性・効率性をどのように評価し優先順位をつけたのか明記していただきたい。
- ・一昨年度の評価委員会からの指摘・提案に対し「河川維持管理協力団体と連携できる事業や団体がさらにないか検討する。」とコメントしているが、それらに対する取組が見られない、どのような検討を行った結果、どうなったのか明記していただきたい。



提言に対するコメント等(総論)

- ・雨水の整備水準としては、1時間当り57.1mm(10年確率)に対応したハード整備を行い、計画降雨に対する浸水解消の実現を目指している。また、整備済みにもかかわらず、計画規模以下の降雨で浸水が発生する区域について、原因を検討し、集水機能を確保していく。
- ・市民により作られた河川維持管理協力団体から年に4回の報告書を受け、謝礼を行っているが、今後も連携をより密にしていく。
- ・親水性を含めた河川整備事業については、平成7年7月に「鎌倉市雨水排水整備基本計画」を策定しており、第3期基本計画において対応を位置づけている。今後も実施可能な箇所があれば考えていきたい。
- ・施工履歴等不明な施設が多く、調査の結果では損傷が著しく、また拡大のおそれがある箇所が広範囲に及ぶ等のことから、複数年で予算を確保し、状態の悪い箇所から順次実施している状況となっている。
- ・河川維持管理協力団体との連携できる事業や団体の検討については、他市等の事例を確認しているが、効果的な事例がない状態である。今後は広報等を含め検討していく。

質問

・「緊急性のある河川整備案件」は皆無か。あるとすれば整備出来ない理由は何か。準用河川の修繕が指標で実績15m(達成率42%)である。



質問に対する回答

緊急性のある河川整備としては、平成20年度に策定した「鎌倉市下水道総合浸水対策基本計画」の中の重点地区の対策として「大塚川から新川への分水計画」を位置づけており、現在分水箇所を選定を行っている段階であり、整備に至っていないものである。なお、準用河川の修繕については、既成市街地が形成された中での修繕であることから、用地確保等の問題が大きい。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・準用河川神戸川及び砂押川の根固工事を実施した。普通河川滑川や準用河川砂押川の維持修繕業務及び準用河川砂押川や小袋谷川のしゅんせつを実施した。
- ・河川施設の突発的な維持修繕業務や請負工事については、概ね対応できた。
- ・協力団体と連携し、良好な水辺環境を目指し、親しまれる川づくりを図っている。
- ・ホテルがあちらこちらの川で見られるようになった。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	2	↘	0	→		→
効果	○	1	△	0	—		—

《課題》

- ・河川維持管理協力団体と市の連携が十分に図られていないことは課題である。憩いの場、動植物の生息が書かれているが、目標、実施内容には上がっていない。水辺環境の創出についてどのように捉えているかが指標化されていない。
- ・市内において現在の水辺環境にどこに大きな問題があり、そこについてどのように注力しているのかが、評価シートから読み取りにくい。

《提言》

- ・施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行してほしい。
- ・老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のため、施設調査を実施してほしい。
- ・河川の維持管理により、水辺環境も整えられてくと思うが、整備のみでなく水辺環境の創出を積極的に行ってほしい。
- ・「局所的な集中豪雨等が生じて、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。」はどの程度の雨量を想定し、どの程度実現されているのか？また「防災」分野との連携はされているのか？「河川津波遡上対策により、津波被害がほとんど発生しない状況となっています。」の津波は何mを想定し、対策をどのようなもので、どの程度実現されているのか？明確にすべき。
- ・毎年指摘しているが、①「適切かつ的確に実施する。」等の表現については、「適切」または「的確」と第三者が判断できる根拠を示して頂きたい。
- ・調査の結果何がわかり、今後どうする事で効率化が計られるのかを示して頂きたい。
- ・「目標とすべきまちの姿」の具体的などの部分にどう結びついているのかを明確にして頂きたい。

《質問》

- ・しゅんせつと、水辺環境の配慮は相反する部分がある。その辺り、どのような工夫をしているのか。考えを知りたい。
- ・目標とすべきまちの姿にある「水辺には動植物が生息し、市民の憩いの場となっており、景観にも配慮した観光都市にふさわしい水辺環境となっています。」の「動植物」は具体的に何であり、生息調査は行われているのか？また実現度はどう判断しているのか？
- ・平成29年度の目標の②にある「費用対効果を考慮して計画的に～」については、何をもち「費用対効果」を出しているのか？